

## 大学生の私語防止と授業の活性化

鈴木 重 人

### **How to prevent students' whispering and to activate class**

**Jujin Suzuki**

Key words : whispering prevention, faculty evaluation survey, class activation.

#### **Abstract**

Recently very often university education in Japan is subjected to harsh criticism. Most of university students show less enthusiasm on studying by themselves. Wishy-washy students are seen in class occasionally, as is often the case with junior-or senior-high schools. Most of the universities in Japan, however, have some students' whispering in class, which exercise some teachers' minds. Discussions of who is "right" or "wrong" with respect to any criticism have been reported by televisions, news-papers and research papers since a few years ago. Mostly, teachers say that students are wrong. Today, however, some people say that teachers also might be responsible for it. In Japan, faculty evaluation survey is now on discussions and it is carried out in a few universities just like the way used in America.

The present writer has been interested in students' whispering in class since 1986. Practices by trial and error very often used for its prevention has led him to describe the following results of research.

1. Why do they whisper in class?
2. What attitude and method should teachers have for teaching in class?
3. Researved seats would be better in case of separated desks as well as in case of non-separated ones.
4. It is emphasized that teaching loud is important, giving warning to whispering

- students without hot temper.
5. Class activation is needed to prevent whispering.
  6. Activated class would be improved more and more by using a faculty evaluation survey and a syllabus, which should be open to the public.
  7. Tests very often given as shown in Table 2 are useful for class activation.
  8. Scientific nomenclatures should be taught correctly, using explanations from many-sided and organic view-points : as an example, it is hoped that an explanation of “NANCHŪ【南中】” in Japanese should be carried out referring to SOUTHING and CULMINATION, which would be comprehensible for students.
  9. It is emphasized that class is not always interesting but is to be enjoyable, which depends on the magnetism expected to appear between a teacher and his students in class, being able to be checked by a faculty evaluation survey, just as shown in Table 1.
  10. Speaking in a word, it might be important for teachers to have the idea that education is rhythm.

Received Sep. 25, 1992

## 1. はじめに

今日ほど『大学生の私語』が論じられることはない。この現象は10余年前から見られ、多くの教師はいろいろ苦悩している模様である。テレビや新聞での論評もここ数年あちこちでなされ、ついには論文としてさえも発表されるに至った。クラス人数の多寡には関係なく起こる驚くべきこの現象は、筆者の知るアメリカ、ニュージーランドの教師には只々驚嘆の眼で見られるばかりで、日本の大学の特異な現象と言わざるをえない。私語と題しての文献の前に、大学の教師の態度として藤田（1982）<sup>3)</sup>は『大学の教師は教え方にはあまり心を使わない傾向があったが、今日の大衆化大学における教育は好むと好まざるとにかかわらず、大幅の修正を要求されるようになってきた』と教材と教授法の選択配慮の大切なことを述べている。氏は電気工学が専門であるが、『私語防止』にも関連し参考になる。児玉（1989）<sup>4)</sup>はテレビ放送で『大学生の私語』と題して教師側と学生側両面からの意見をのべているが、私語防止対策としてはあまり参考にならない。また、新堀・島田（1990）<sup>5)</sup>は『大学における私語の問題』と題して膨大な研究報告を作っているが具体的名案が示されていない。大学設置基準（昭和31年文部省令）<sup>5)</sup>が1991年に改正され、教育研究の活性化のため学生による授業評価・教師の自己評価が求められてきている。筑波大学<sup>1)</sup>、鹿児島大学水産学部<sup>2)</sup>・国際基督教大学<sup>2)</sup>では既に実施に踏み切っている。この案はアメリカではもう定着していて、筆者が度々訪問するサウスカロライナ大学の理・数学部評価表<sup>13)</sup>など20年も前から実施していて私語防止に大変役立つものがある。筆者は一般教育のクラス2種（教育学部と外国語学部）それぞれ

れ200名を越す大所帯に対し試行錯誤の結果、現在は効を奏しているの、ここに報告する。

## 2. 私話へのその場での対応

苦悩する教師から得られた情報は下記のように、学生側に非があるとの考えの基に取られた処置は教師個人の性格が顕示されている3つの型に分類される。

### 1) 積極型

- (1) 受講票を目のまえで破って、受講させない
- (2) 退場さす
- (3) 私語者に向けてチョークを投げる
- (4) 持ち物(かばん等)を廊下に放り投げる

### 2) 消極型

- (1) 前の数列のみを相手にし、後列のほうは無視
- (2) 突然小さい声に落とす

### 3) 中間型

- (1) 突然講義を止め、沈黙し、私語学生をじっと見つめる
- (2) 突然声を大にする
- (3) 説得するように注意する
- (4) 叱責して注意する

この3つの型のうち、『積極型』は私語者が教室から消えていくのだから一番楽な解決法である。しかし、教育者としては一考あってよいであろう。『消極型』は無責任といえよう。筆者は3) - (2)と3) - (4)を併用している。

## 3. 学生の私語に対する感想

筆者は1986年に、一般教育『地学』受講の1年生300名に対し私語に対する感想を述べさせた結果を集計し、理由・反省・対策の3項目に分けることができた。

### 1) 理由

集中できない……………10%

辛抱が足りない……………10%

90分連続で息抜きが欲しい

小人数しか理解できない授業

不安のため

相手が話し掛けてくる

友と交流を深めたい

後方の席からは字が見えない

緊張が緩む  
退屈になる  
多人数のため自分だけなら良い  
話をしないと眠くなる  
黒板のことを取り終った後の空いた時間  
唯しゃべりたい  
他人に迷惑を掛けていると気付かない

## 2) 反省

他人に迷惑……35%  
教師に失礼  
講義を聞く権利を放棄している  
要はやる気  
私語する人はいつも決まっている  
周りで注意すべし  
教師による注意を望む  
小学校の頃から注意された  
私語したときは聞き落としあり  
私語の相手は犠牲になる  
止めさせる勇気がない  
他人に迷惑を掛けない程度なら良い  
当事者だけを楽しませ周りは嫌な気分  
注意されても直ぐまた喋り反省なし

## 3) 対策

一番前に座らせる  
一人一人離して座らせる  
名指しで注意  
退席させる  
おたがいが自覚をもつ  
寝てしまえば良い  
出席を取らなければ良い  
欠席すれば良い  
注意するだけでは減らない  
学生の受講に対する考え方を知るには教師側で作ったアンケートよりも忌たんのない感想を述べさせ、それを分析したほうがより多い情報が得られよう。まず、何故私語をするかに

については、『授業に集中できない』と『我慢できない』で20%を筆頭に15項目に分類できた。中でも、はっきりと『高校の50分授業から一気に90分授業の教室は息苦しい』と言っており、15分刻みのCM入り民放TVに慣れてきた者には耐えられないであろう。次に、反省としては、『他人に迷惑を掛けている』の35%を始め『私語の相手は犠牲となる』・『止める勇気がない』など悩みをもって反省している。殊に『教師による注意を望む』は教師が2-2) - (1)のような態度を取るべきでないことを示唆するものである。三番目の対策については、『退席させる』・『一番前に座らせる』・『一人一人離して座らせる』は積極性がある有効であり、学生側も不愉快に思いながらも注意する勇気がなく困り果てた結果の判断なることが伺える。

#### 4. 私語の原因

私語の原因にはいろいろあるが、筆者は次の5つを挙げる。

##### 1) 家庭内での会話時間

今日の日本の家庭は子供の数が少ないので、兄弟姉妹同士の会話は殆ど無く、親は仕事が忙しすぎて子供との会話が極めて少ない。人間は無言ではいられないので、教室で友達と話す。

##### 2) テレビの影響

テレビは今や家庭の一構成員と考えてもよいほどの存在で、時には視聴者不在のままであったり人間同士が会話していたりしていても気儘に振る舞っている。テレビ自身には罪の意識はないのと同様に、私語者は他人に迷惑を掛けているとは思わない。

##### 3) 教室の机の構造

大教室では独り用机でなく連結式なため、学生同士が接しすぎている。

##### 4) 講義内容の難易度

講義内容が難しかったり易しかったりのいずれかであるが、前者のほうが多いであろう。

##### 5) 放課時間の短さ

放課時間に友達と会話し交友を深めたいと思っても、授業の時間延長や教室への移動などで休憩時間が短縮され会話時間が不十分となる。

児玉(1989)<sup>4)</sup>は私語の原因を要約して、『講義の一方通行』『学生の群れたがる習性』を挙げ、学生は孤独でいると不安になって私語を始めるのであろう、と言っている。

#### 5. 授業の活性化と授業評価

旧制大学の授業は一般的傾向として、学生は教師の講義を必死にノートに取る形式で正に一方通行そのものであって私語などしている暇は全く無かった。今日では、中学校・高等学校で『ノート取り』に慣れていないため、急に大学の一方通行式授業に会い面食らうのは当

第1表 授業評価 Faculty Evaluation Survey

UNIVERSITY OF SOUTH CAROLINA COLLEGE OF SCIENCE AND MATHEMATICS FACULTY EVALUATION SURVEY*	
1. What is your classification?	11. Based on the instructor's presentation, he was prepared for class:
2. What is your cumulative G. P. R.?	12. To what extent did the instructor's enthusiasm and interest help you learn the subject matter?
3. What final grade do you anticipate in this course?	13. If you needed assistance from the instructor outside of class, to what extent was the instructor available to you?
4. Why are you taking this course?	14. To what extent did the examinations reflect the course objectives and the material emphasized in class?
5. Did you enjoy this course?	15. In your opinion is the instructor concerned about the students as individuals?
6. To what extent were the benefits you derived from this course consistent with the effort you put forth?	16. Was the instructor reasonably prompt in returning tests and assignments?
7. How beneficial was the textbook and other study aids utilized in this course?	17. Considering all aspects of your learning experiences with this instructor, how would you rate his overall performance in this course?
8. To what extent does the instructor exhibit command of the subject matter?	
9. To what extent did the instructor's teaching methods help you understand the subject matter?	
10. How beneficial were the instructor's responses to students' questions?	

\* Only questions picked up.

Items for answer divided into three or five, depending on the question.

\* 質問項目のみ表記した

解答項目は質問の種類に応じて3～5

\* 用紙にはコメント欄が設けられているが、大変有益の由

然の成り行きであろう。しかし、今や、開かれた大衆化大学においては、旧態依然たる講義方法がまかりとおってよい筈がない。

筆者は以前から『授業の活性化』なる言葉を授業中好んで用いている。しかし、『活性化』の実現は並大抵のことではない。昭和31年（1956）文部省令第28号の大学設置基準も昨年7月（1991）<sup>9)</sup>改正され、大学教育の改善が求められるに至り、全国各大学で審議が始まりもう既に教師の自己評価・学生による授業評価が実施されているところもある。鹿児島大学水産学部では『学園白書』を学外に公開してその評価を仰いでいる<sup>2)</sup>。学生による評価はアメリカではもう定着しているようで、サウスカロライナ大学理・数学部での様式<sup>13)</sup>（第1表）中No.5の『授業は楽しかったか』・No.9の『教師の教授法は上手であったか』・No.11の『教師の授業に臨む準備は整っていたか』・No.16の『テスト、宿題の返却は早かったか』などは授業の活性化に役立つであろう。

授業計画票（syllabus シラバス）も学会発表<sup>7)~12)</sup>と同様に考えても良く公開性を持つもの

第2表 授業計画

平成4年度 授業計画		担当者 鈴木重人
一般教育『地学』、選択、通年、4単位		外国語学部・教育学部
<p>授業科目の目標：一般教育は1949年（昭和24）新制度による大学で初めて設けられた系列科目であり、発足以来その性格についていろいろ議論をよび、その扱いについては各大学でまた担当教師によってもまちまちの内容が講義されている。この『地学』の授業においては、天文学・地球科学のマクロからミクロにわたる両教材を通して事物・現象の多角的・有機的考察の養成を計る。そして、新聞やTVでの大事な時事問題を必要に応じ予定を変更して教材に取り上げる。更に小テストを課したり質問を記述させたりして、授業の活性化と爽やかなふんい気の生ずることを期待する。</p>		
<p>授業内容の全体計画：</p>		
月	日	
4	16	学生要覧・シラバスを用い、一般教育の意義・単位の認定・受験資格に触れる。第1章『What is CHIGAKU?』。座席指定とする。
4	23	座席の調整。第1章の続きを行ない、科目『地学』を理解さす。
4	30	第2章の『宇宙一般概念』を6節に分け、第1節の「宇宙とは」においてその定義を解説し、「宇宙」と「universe, cosmos」との相違点。小テスト
5	7	5/14のテストの処理結果発表。第2節「天体の専門的分類」で恒星・星団・
5	14	銀河・星雲・星間物質など10項目挙げ解説。小テスト。
5	21	5/28のテストの処理結果発表。第3節に「星座」を設ける。第4節の「銀
5	28	河と銀河系」でこの英語名との対応・星座との関係に及ぶ。小テスト
6	4	6/11テストの処理結果発表。第5節「恒星のスペクトル型と表面温度」で
6	11	HR図・放射エネルギーと波長による分布図使用。小テスト。
6	18	6/25テストの処理結果発表。第6節「星のエネルギー源と星の一生」で、
6	25	核反応式使用。星の年令と寿命につき誤解なきよう解説。小テスト。
7	2	7/9テストの処理結果発表。第3章『いん石と地球』で、地球・人間との関
7	9	わりあい、環境（温度・圧力）による鉱物の変化の解説。小テスト。
10	1	10/8テストの処理結果発表。岩石と鉱物との関係。石英の化学組成式SiO <sub>2</sub>
10	8	とSiO <sub>4</sub> 四面体との関係をクリストバル石モデルにより解説。小テスト
10	15	10/22テストの処理結果発表。第4章『火山』において、かんらん岩の部分
10	22	熔融・プレートテクトニックスの解説。小テスト。
10	29	11/12テストの処理結果発表。マグマの発生・マグマ溜り・火山噴出物に触
11	12	れた後、火山の恩恵と災害にわたる。小テスト。
11	19	12/3テスト結果。第5章『環境地質学』で、自然破壊・環境保全・地球温
12	3	暖化・酸性雨等につき資料を基に偏らない解説をする。小テスト。
12	10	12/17テスト処理結果発表。第6章『ゲートと地質学』で、ゲートの花こう
12	17	岩観をのべる。教育学部学生にのみ理科教師像への私見をのべる。
1	14	

参考図書・文献：鈴木重人（1989）What is “CHIGAKU”? 名古屋地学、50、24-27。  
 “ （1984）Göthe の「Über den Granit」に対する理科教育的考察、愛教大教育センター研報、8、203-210。  
 加藤万里子（1988）100億年をかける宇宙。恒星社。

であろう。筆者は大学の方針に従って第2表のような計画表を作った。自然科学は術語（専門語）の積み重ねと見ても過言ではなく、授業中矛盾や疑問を感じつつの暗記になりかねないものもあるであろう。そのようなときは、国際理解教育にも触れて説明すると明快な学習が可能ながある。例えば、『南中』は断片的な説明ではなく、Southing, Culmination に触れて初めて授業は活性化するのであろう。また、教科書での石英の化学組成式 $\text{SiO}_2$ と $\text{SiO}_4$ 四面体の学習は全く断片的であるが、さりとして石英の構造を説明しようとしても非理学部専攻の学生にはとても理解され難い故、筆者はクリストバル石モデルによる解説で理解させている。このような工夫によって、授業の活性化に努め効果を挙げている。更にまた、ゲーテの花こう岩観の解説を通して、青年には是非とも『落ち着き Ruhe』の体験の重要性を説き、教師・学生間に働く磁力に左右される『楽しい授業』・『わかりやすい授業』を目途としている。このことは授業評価により、より良き改善ができるであろう。殊に、2週間おきに行なう小テストには理解度の感想・質問をも付加させ、自己反省に役立たせている。

## 6. 授業はリズム

授業はリズムと考えられよう。即ち、授業は単調な一方通行式のものであってはならない。そこには美しいメロディーが流れているような構造が望ましいであろう。教師は、指揮者であり、演奏者であり、歌手である。適当な強弱や休止符を織り混ぜて爽やかな雰囲気作りに努めなければならないと思う。実践方法は次の通りである。

- 1) 座席指定……欠席調べの能率化、発問・応答時の効用
- 2) OHP……大きな文字・大きな図に用いる
- 3) スライド……筆者の外国研修時撮影のもの
- 4) 突然の大声の説明と大文字板書……注意喚起の効用
- 5) 講義途中の机間巡り……文字・図の理解度調べ
- 6) 余談の挿入……回り道の効用
- 7) 色チョークの適宜な使い分け……板書文言説明の効用
- 8) 話す速度……分速100語、余談時は200語程度
- 9) 授業終了前的小テスト……学生の理解度を知って授業改善の効用
- 10) 学会発表内容の活用……指導上の問題点としての効用
- 11) 専門用語の分りやすい解説……『情報』としての言葉の使用。動物行動学専攻の竹内(1988)<sup>14)</sup>は言葉を操作としての機能ではなく情報伝達の機能として用いていきたい、との趣旨を述べており参考になる。

このリズムは私語防止に効果があったと思われ、引き続き誠意を持って体当たりの教育に精を出す考えである。



## 7. おわりに

1986年以来授業中の私語に悩まされ、同僚に尋ねたり、試行錯誤を繰り返し、更には目に留まる文献を見たりした。文献には私語防止の具体的名案が見られず、時が経つなか、大学設置基準改正による『自己評価・授業評価』からの知恵も幸いし、自分なりの爽やかな授業が出来るに至った。私語の原因・対策から始め、授業の活性化に及び『授業はリズム』までの経緯を述べた。

### 謝辞

授業評価に関する情報を賜ったサウスカロライナ大学教授電子顕微鏡センター長渡部哲光博士並びに私語発生時の対応に関する情報を賜った愛知教育大学仲井豊・成瀬聖慈両教授にそれぞれ厚く感謝の意を表す。なお、岐阜教育大学図書館司書寺澤裕子主任には、文献取り寄せの労を執って頂き大変お世話になった。

### 引用文献

- (1) 朝日新聞 (1990) 刺激に富む講義への一石に。4月14日社説
- (2) 朝日新聞 (1992) 大学よ、顔を赤らめよう。5月31日朝刊
- (3) 藤田広一 (1982) 教材と教授法。民主教育協会 (IDE), 現代の高等教育, No.236, 24~28
- (4) 児玉邦二 (1989) 大学生の私語。NHKテレビコラム, 7月10日
- (5) 文部省 (1991) 文部省令, 改正大学設置基準
- (6) 新堀通也・島田博司 (1990) 大学における私語の問題。武庫川学院教育研究所, 研究レポート
- (7) 鈴木重人 (1990a) 専門用語の指導上の問題点。日本理科教育, 島根大会要項, 54
- (8) 〃 (1990b) 火成岩の化学組成変化図に対する指導上の問題点。地学研究, 39, 143~149.
- (9) 〃 (1991a) 土の指導に対する問題点。日本理科教育, 香川大会要項, 102.
- (10) 〃 (1991b) 天の川・銀河・銀河系に対する指導上の問題点。日本理科教育, 東海支部大会要項, 16.
- (11) 〃 (1992) 星の年令と寿命に対する指導上の問題点。日本理科教育, 千葉大会要項, 440~441.
- (12) 〃・池田典子 (1992) 教科間における「以上」(≦)・「以下」(≧)の指導上の問題点。日本教科教育学会誌, 15, 41~45.
- (13) The USC (1992) Faculty Evaluation Survey. University of South Carolina, College of Science and Mathematics.
- (14) 竹内久美子 (1988) 言葉は「情報」か「操作」か。朝日新聞, 7月11日夕刊